



12月の園だより

令和6年12月 富田林市立錦郡幼稚園



～ みんなで学びをつくろう！ ～

早くも1年の締めくくり、12月になりました。一気に冷え込んできましたが、それでも平年よりは、ずいぶん暖かい年の瀬となりそうです。

さて、11月には、サツマイモ掘り(5日)、大阪大谷大学『学園祭舞台発表』(9日)、保育参観(13日)、里山散策(15日)、川西幼稚園との交流(18日)、錦郡小学校2年生との交流(19日)、大阪大谷大学『自然環境教育』(22日)、大阪大谷大学『絵本とのふれあい』(26日)など、いずれもいいお天気のもと、たくさんの方々にご協力いただきながら、園内外で多種多様な活動、取組を行うことができました。

里山でお世話になっている方から散策の帰り際に「『にしこおり柿』って今でも幼稚園にあるんですか？」と尋ねられ「ありますよ！」と返答しました。早速週明けに「今からそちらへ行きます！」と電話があり程なくお越しになりました。実際の『にしこおり柿』を見ていただき、「里山の活動とは違う団体にも所属していて、その会報に『にしこおり柿』のことが載っていたので持ってきました」と資料もいただきました。「ここ(錦郡幼稚園のこどもたちが生活している場所)にあることに意味がありますね」お互いに同じ思いを持ちました。

『にしこおり柿』は、今年たくさんの実をつけました。こどもたちが収穫し、興味を持ったので少しずつ食べてみました。「苦い!」「まずい!」渋柿の味を知ってから職員室前の軒下に吊るしました。今度は「甘い!」「おいしい!」吊るし柿の味を知ることになりました。どちらの味も自然から学んだのです。

大阪大谷大学との種々の取組は、学生さんや指導に当たられている先生方と本園のこどもたちや職員、お互いの楽しみや学びに繋がるものとなってきました。こどもたちがお客さんとしてだけではなく『学び手』として、時には『指導・支援者』として、大学という大きな舞台に登場している姿は圧巻でした。また、頻繁に幼稚園にもお越しいただいているのですが、こどもたちが自分たちの生活や学びを伝えていく『メッセンジャー』としての立ち位置を持つまでに育ってきています。

これからも、こどもたち自身が気づき、動き、楽しく遊び学ぶきっかけとなる環境を、『にしこおり』の地に集うみなさんとともに創ってまいります。引き続き応援よろしく願いいたします。

園長 塩野 義和